

2023年度
キャンパスガイド

基礎教育



基礎教育

基礎教育の目標と内容

本学の教育目標は、高度で普遍的な教養を身につけ、専門的な知識・技術を修得した行動力のある専門的知識人・技術者を育成することにあります。

本学は平成 26 年度から、新しい教育課程をスタートさせています。この基本方針では学部段階の教育を学士課程教育と称しており、基礎教育と専門教育からなる課程在籍期間（4・6 年間）の教育活動全体を通して、学生の学修成果という観点から教育カリキュラムを構築することを目指しています。

学士課程教育は、これまでの共通教育、専門教育といった区分にとらわれず、学生の学修成果という観点から、基礎、応用、発展の連続した段階で、課程在籍期間（4・6 年間）の教育活動全体を通じて教育課程を編成します。

基礎教育科目は導入科目、課題発見科目、学士力発展科目の 3 つの区分から構成されます。スキル系の導入科目は学士力関連の知識・スキルの育成を、専門基礎を含む導入科目は専門分野固有の知識・スキルの育成を、課題発見科目は学士力の態度・志向性の育成を、学士力発展科目は学士力と専門分野固有の両領域に関わる知識・スキル及び態度・志向性の育成を主に担っています。

なお、基礎教育のカリキュラムは、令和 6 年度に大幅に変わる予定です。そのため、以下に示す内容に変更が生じますので、詳細は、令和 5 年度の後学期にお知らせします。

1. 導入科目

「導入科目」は、学習スキル、コミュニケーション・スキル、情報倫理、データリテラシー、異文化理解等、大学で必要となる基礎的能力を学修します。

(1) 「大学教育入門セミナー」（2 単位）

学生が大学での生活と主体的な学習活動を始めるに当たっての基礎的知識・技能を修得すること、所属する学科・課程の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解すること、及び大学教育の基礎となるライティング等の知識・スキルを、協同学習などのアクティブ・ラーニングによって学ぶことを目的とする科目です。

(2) 「情報・データリテラシー」（2 単位）

コンピュータの基本事項や情報の概念を理解し、ネットワークの利用、ソフトウェア（ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等）の活用、AI の基礎、情報セキュリティ・情報倫理などについて学びます。さらに、ICT を用いて、多様な情報を収集・分析して適切に判断し、それらを情報倫理に則って効果的に活用できる技能（情報リテラシー）と、データで示された事象を表やグラフで適切に表現し初歩的な統計判断を行うことができる技能（データリテラシー）を修得する科目です。

(3) 「外国語コミュニケーション」（10 単位）

① 「英語」（8 単位）

外国語コミュニケーション（英語）では、学習者が在学中及び卒業後の将来にわたって関わる専門分野で実際に使える英語能力を身につけることを目的とする科目です。

② 「初修外国語」（2 単位）

外国語コミュニケーション（初修外国語）は、英語以外の言語との出会いと初歩的な語学学修から異文化理解へと内容を展開し、異文化に対する学生の興味を喚起することを目標とする科目です。

(4) 「保健体育」（2 単位）※教育学部と医学部（看護学科）のみ必修

身体発達の成熟・完成期にある大学生として、大筋群を用いた直接的身体経験であるスポーツという文化を理解し、健康の保持と増進、身体能力の維持と向上を目指し、活力ある大学生活と生涯スポーツの基盤形成を図ることを目標とする科目です。

(5) 「専門基礎」（2～8 単位）

専門教育の基礎となる知識・技能を修得する科目です。

2. 課題発見科目

「課題発見科目」は、少人数のクラス編成によるグループ学修等のアクティブ・ラーニングを教育方法の特徴とし、知識・理解の修得に加え、論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力、生涯学習力等の育成を目指します。

(1) 「専門教育入門セミナー」(2単位)

学生が学部の専門分野で主体的な学習活動を始めるに当たっての基礎的知識・技能を修得すること、専門的学問分野で解決すべき課題を発見し、それを解決するための手法を学ぶことを目的とする科目です。

(2) 「環境と生命」(2単位)

本学の理念・目的に記されている「生命科学」と「環境保全」の教育・研究を実現するための基礎科目として設定されており、生命現象への理解を深めるとともに、環境と生命の関係を科学的、論理的に考察し、生命にとって必要な環境、人間にとって必要な環境を理解し、環境問題の原因と本質を系統的に探ることを目的とする科目です。

(3) 「現代社会の課題」(2単位)

現代社会において課題となる、人文・社会・地域・自然の基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解します。

① 「社会と人間」

「社会と人間」の領域では、社会問題の具体的な諸領域を事例にして、現代社会の抱える諸問題を学ぶことを目的とする科目です。幅広い分野を学ぶことで、複雑・多様な現代社会に対処するための高い倫理観と責任感を育み、様々な思想、文学、芸術や異文化に触れることにより、豊かな人間性を涵養し、人間への理解と共感或いは自らの倫理的・文化的人間としての視座の確立を目指す科目です。

② 「自然の仕組み」

「自然の仕組み」の分野では、自然の仕組みへの理解を深めることで、現代社会が抱える諸課題を把握することが目的となる科目です。

3. 学士力発展科目 (6単位～)

「導入科目」、「課題発見科目」で身につけた知識・スキル及び態度・志向性を発展させ幅広い知識と多様な経験を通して、主体的かつ総合的に学ぶ素地を養うことを目的とする科目群です。以下の系列から構成されます。

①地域・学際系 ②自然科学系 ③外国語系

4. 基礎教育科目の履修方法について

基礎教育科目は、次の一覧表及び後に掲げる表により指定された単位数を履修します。

表1 基礎教育科目一覧表

区分	科目群		教育学部	医学部		工学部	農学部	地域資源 創成学部
				医学科	看護学科			
導入科目	大学教育入門セミナー		2	2	2	2	2	2
	情報・データリテラシー		2	2	2	2	2	2
	外国語 コミュニケ ーション	英語	8	8	8	8	8	8
		初修外国語	2	2	2	2	2	2
	保健体育		2	—	2	—	—	—
	専門基礎		6	7	2	4	2	8
小計		22	21	18	18	16	22	
課題 発見 科目	専門教育入門セミナー		2	2	2	2	2	2
	環境と生命		2	2	2	2	2	2
	現代社会 の課題	社会と人間	2	2	2	2	2	2
		自然の仕組み						
小計		6	6	6	6	6	6	
学士 力 発展 科目	地域・学際系		②注1	②注2	②注3	⑥注4	⑥注5	④注6
	自然科学系				②注3			
	外国語系			④注2	②注3	④注4	④注5	
	小計		8	8	6	12	14	
基礎教育科目単位数合計			36	35	30	36	36	36

※学士力発展科目の○数字は、必ずその区分において所要単位数を履修する。ただし、学部、学科によっては科目を指定している場合があるので注意すること。区分指定がある場合、学士力発展科目の小計単位数から○数字の単位数を引いた残りの単位数を任意の区分から履修する。

注1. 教育学部は、学士力発展科目「地域・学際系」から「日本国憲法」を履修する。

注2. 医学科は、学士力発展科目「地域・学際系」から2単位、「外国語系」において、英語4単位（コミュニケーション英語 Mc1, Mc2）を履修する。

注3. 看護学科は、学士力発展科目「地域・学際系」から「NVCで育む対話能力」、「自然科学系」から「統計学入門」及び「外国語系」から「医療英語（ENP B I）」を履修する。

注4. 工学部は、学士力発展科目「地域・学際系」から6単位を履修する。また、「外国語系」の4単位は英語（英語 T3、英語 T4）を履修する。

注5. 農学部は、学士力発展科目「地域・学際系」から6単位、「外国語系」の4単位は英語（英語 A3(学術英語基礎)、英語 A4(専門コミュニケーション英語)）を履修する。

注6. 地域資源創成学部は、学士力発展科目「外国語系」から英語4単位（ビジネス英語 I-1、ビジネス英語 I-2）を履修する。残りの4単位は、任意の区分から履修する。

(1) 「大学教育入門セミナー」

大学教育入門セミナーは、1年次の前学期に開講されます。授業時間及びクラス編成は各学部、各学科・課程ごとに決定されますので、所属学部の指示に従って受講してください。

(2) 「情報・データリテラシー」

情報・データリテラシーは、1年次の前学期に開講されます。授業時間及びクラス編成は各学部、各学科・課程ごとに決定されますので、授業時間割で確認、または所属学部の指示に従って受講してください。

(3) 「英語」

次の表に掲げる授業科目から、クラス区分の指定により、1年次前学期に2科目4単位、1年次後学期に2科目4単位、合計8単位を履修します。

ただし、医学部(医学科)は、1・2年次前・後学期でそれぞれ1科目2単位、合計8単位を履修します。

表2 英語の授業科目と認定単位

学部区分		1年次前学期		1年次後学期	
		授業科目	認定単位	授業科目	認定単位
教育学部		英語 Ea1	2	英語 Ea2	2
		英語 Eb1	2	英語 Eb2	2
医学部	医学科	英語 Ma1	2	英語 Ma2	2
	看護学科	英語 Na1	2	英語 Na2	2
		英語 Nb1	2	英語 Nb2	2
工学部		英語 Ta1	2	英語 Ta2	2
		英語 Tb1	2	英語 Tb2	2
農学部		英語 Aa1	2	英語 Aa2	2
		英語 Ab1	2	英語 Ab2	2
地域資源創成学部		英語 Ra1	2	英語 Ra2	2
		英語 Rb1	2	英語 Rb2	2
		2年次前学期		2年次後学期	
医学部	医学科	英語 Mb1	2	英語 Mb2	2

注 英語の再受講に関する手続きについては、WebClass(メール通知)あるいは掲示板に別途掲載します。

(4) 「初修外国語」

ドイツ語、フランス語、中国語又は韓国語から1外国語を選択した上で、次の表に掲げる授業科目から学部区分の指定により、1年次前学期で1科目2単位を履修します。

表3 ドイツ語・フランス語・中国語及び韓国語の授業科目と認定単位

学部区分	学期	1年次							
		授業科目	認定単位	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位
教育学部	前	ドイツ語E	2	フランス語E	2	中国語E	2	韓国語E	2
医学部	医学科	ドイツ語M	2	フランス語M	2	中国語M	2	韓国語M	2
	看護学科	ドイツ語N	2	フランス語N	2	中国語N	2	韓国語N	2
工学部	前	ドイツ語T	2	フランス語T	2	中国語T	2	韓国語T	2
農学部	前	ドイツ語A	2	フランス語A	2	中国語A	2	韓国語A	2
地域資源創成学部	前	ドイツ語R	2	フランス語R	2	中国語R	2	韓国語R	2

注 再受講に関する手続きについては、WebClass(メール通知)あるいは掲示板に別途掲載します。

『英語の認定』

- ① 英検1級に合格した場合、あるいはTOEIC試験で730点以上、またはTOEFL試験(iBT)で79点以上を取得した場合には、申請により本学の成績に点数化した上で、「英語Da」4単位、「英語Db」4単位として認め、各学部毎(医学部は除く)に該当する外国語科目(「英語」:Ea1+Eb1+Ea2+Eb2; Ta1+Tb1+Ta2+Tb2; Aa1+Ab1+Aa2+Ab2; Ra1+Rb1+Ra2+Rb2)の単位に充てます。

また、英検準1級に合格した場合、あるいはTOEIC試験で650~729点、またはTOEFL試験(iBT)で70~78点を取得した場合には、本学の成績に点数化した上で、「英語Da」4単位として認め、該当する外国語科目(「英語」:Ea1+Ea2; Ta1+Ta2; Aa1+Aa2; Ra1+Ra2)の単位に充てます。なお、その他の外国語科目(「英語」:Eb1+Eb2; Tb1+Tb2; Ab1+Ab2; Rb1+Rb2)の修得が必要です。

ただし、単位の認定を申請する場合の申請期間は、前学期が4月4日から4月15日まで、後学期が9月20日から9月30日までとします。

- ② 上記の単位認定を申請する場合は、受験した検定試験等の試験結果の証明書を所属する学部の教務・学生支援係に提出してください。

※「外国語科目の単位認定の取扱い」により、一度認定された科目(単位、評価)は、その後、更に優れた試験結果をもって認定を申請しても、既に認定された単位、評価は更新されないの注意してください。

表4 英語の検定試験等による単位の認定

学部区分	対象とする学修		認定科目	認定単位	該当科目「英語」
教育学部	実用英語技能検定(英検)	1級	英語 Da	4	Ea1+Eb1+Ea2+Eb2 Ta1+Tb1+Ta2+Tb2 Aa1+Ab1+Aa2+Ab2 Ra1+Rb1+Ra2+Rb2
	TOEIC 試験	730点以上			
工学部	TOEFL 試験(iBT)	79点以上	英語 Db	4	
農学部	実用英語技能検定(英検)	準1級	英語 Da	4	Ea1+Ea2 Ta1+Ta2 Aa1+Aa2 Ra1+Ra2
	TOEIC 試験	650点~729点			
地域資源創成学部	TOEFL 試験(iBT)	70点~78点			

(5) 「保健体育」

次の表に掲げる授業科目から、学部区分の指定により履修します。

表5 「保健体育」の開講コースと履修の学部区分

学部区分	1年次前学期		1年次後学期	
	授業科目(コース)	認定単位	授業科目(コース)	認定単位
教育学部	スポーツ科学I	1	スポーツ科学II	1
医学部看護学科				

(6) 「専門基礎」

次の表に掲げる授業科目から、学部区分の指定により履修します。

表6 「専門基礎」の開講科目と履修の学部区分

学部区分		1年次前学期		1年次後学期		2年次前学期		2年次後学期	
		授業科目	認定単位	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位
教育学部		教職入門	2			特別支援教育入門 対象: 小中一貫教育コース 教職実践基礎コース 発達支援教育コース (子ども理解専攻)	2	教職キャリア教育	2
		特別支援教育入門 対象:発達支援教育コース (特別支援教育専攻)	2						
医学部	医学科	生命科学の 倫理基礎論	2	有機化学	2				
	看護学科	医学生物学	2	発生学	1				
工学部		生命を知る	2						
		物理科学 I	2						
農学部		数学の考え方	2						
		統計学基礎	2						
地域資源創成学部		コミュニケーション概論	2	統計学基礎	2	社会調査法	2		
		数学基礎	2						

注 授業時間及びクラス編成は各学部、学科ごとに決定されますので、所属学部の指示に従って受講してください。

(7) 「専門教育入門セミナー」

専門教育入門セミナーは、授業時間及びクラス編成は各学部、各学科・課程ごとに決定されますので、所属学部の指示に従って受講してください。

(8) 「環境と生命」

次の表に掲げる授業科目を、学部区分の指定年次に履修します。

表7 「環境と生命」の履修の学部区分

学部区分	1年次前学期		2年次前学期	
	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位
教育学部			環境と生命	2
医学部	環境と生命	2		
工学部			環境と生命	2
農学部			環境と生命	2
地域資源創成学部			環境と生命	2

注 クラス編成等は掲示にて発表します。

(9) 「現代社会の課題」

次の表に掲げる授業科目から、履修します。

各学部の学生は、「社会と人間」または「自然の仕組み」から1科目（2単位）を選択履修します。

選択に関する手続きについては、WebClass(メール通知)あるいは掲示板に別途掲載します。

表8 「現代社会の課題」の授業科目と履修の学部区分

注 次の表に掲げる授業科目は、年度により変更されることがあります。開講科目については、当該年度の授業時間割及びシラバスを参照してください。

学部区分	1年次後学期		
	分野	授業科目	認定単位
教育学部	社会と人間	人間の心と行動	2
		美術と文化ー美術鑑賞から異文化理解へー	2
		音楽と人間	2
		暮らしを見つめる	2
		地方自治の法と政策 ※令和5年度休講	2
		風土・地域と人間	2
		現代社会と歴史（1）ー近現代日本とアジア(外交と戦争)ー	2
		現代社会と歴史（2）ーヨーロッパと日本、その歴史と文化ー	2
		現代社会と家族	2
		現代社会と子供・青年	2
医学部	社会と人間	現代社会と法	2
		大学と学生	2
工学部	社会と人間	「私」のキャリアとライフデザイン	2
		教育と人間 ※令和5年度休講	2
農学部	社会と人間	障がい者支援入門	2
		国際協力入門ー世界を舞台に活躍するー	2
		人口減少社会における公民連携（PPP）のまちづくり	2
		生と死の倫理学	2
		現代ドイツへの招待ー多面体として見る異文化社会ー	2
		SDGs 時代の開発経済学入門	2
		ソーシャルデザイン	2
		マイノリティから見る世界：一枚岩ではない世界の歴史と社会	2
		地域学入門 I（A）	2
		地域学入門 I（B）	2
地域資源創成学部	自然の仕組み	生物科学	2
		情報科学	2
		物質と電気の科学	2
		統計データによる地域課題分析	2

※上表の科目名は変更される場合があります。

(10) 「学士力発展科目」

次の表に掲げる開講科目から、原則として2年次（医学部の学生は1年次から単位修得可能、また、工学部、農学部の学生は、①印の付いている科目を4単位に限り1年次から単位修得可能）の前学期及び後学期に各学部・学科（課程）が定める単位数以上を履修します。選択の便宜のために地域・学際系、自然科学系及び外国語系に区分して表示されていますが、各学部で指定されている単位以外は、系の区分に関わりなく自由に選択できます。本科目群は教養をより一層深め・広げることを目指すために設けられており各科目のねらいを参考にして計画的に履修するようにしてください。各科目の詳細内容はシラバスを参照してください。

また、新たに追加された授業科目が開講される場合は、それらも選択することができます。

表9 学士力発展科目

注 次の表に掲げる授業科目は、年度により変更されることがあります。開講科目については、当該年度の授業時間割及びシラバスを参照してください。

系	前学期開講科目	認定単位	後学期開講科目	認定単位
地域・学際系	博物館概論	2	言語/文化的多様性と地域社会	2
	生涯学習論	2	現代社会と共生	2
	マーケティング入門	2	金融リテラシー講座	2
	日本の恋歌ー和歌・短歌と歌謡曲ー	2	「人生の各ステージにおける学び」と博物館	2
	健康科学概論	2	日本の自然と災害	2
	ベンチャービジネス入門	2	＊地域デザイン概論Ⅱ	2
	魚・家畜・草の文化論	2	変貌する 21 世紀の世界ーさまざまな地域の社会と文化ー	2
	日本の自然と災害	2	ラーニングポートフォリオ入門セミナー： 自分の学びを記録し振り返る ※1 年次のみ受講可	2
	＊地域学入門Ⅱ (B)	2	生涯スポーツ実践Ⅲ	1
	＊地域デザイン概論Ⅰ	2	生涯スポーツ実践Ⅳ	1
	♣ ライフプラン作成のためのキャリアデザイン 講座ー世界を視野につくるマイストーリーー ※1 年次から受講可 ※令和5 年度休講	1	外国語習得論	2
	九州学Ⅰ (集中)	2	九州学Ⅱ (集中)	2
	生涯スポーツ実践Ⅰ	1	生命保険論から社会人基礎力を涵養する	2
	生涯スポーツ実践Ⅱ	1	言語学入門	2
	ワークショップ入門 (集中) ※令和5 年度休講	2	ファイナンシャルプランニング講座	2
	☆NVC で育む対話能力	2	①宮崎の産業と産学・地域連携	2
	⑤医療人文学入門：ナラティブから医療を考える	2	①ヘルスサイエンス	2
	現代アメリカ入門	2	①△日本国憲法 (火7・8)	2
	市民参加の地域づくり	2	①△日本国憲法 (木3・4)	2
	経営学入門	2	①環境と地域社会 ※令和5 年度休講	2
	宮崎の近代と戦争	2	博物館に学ぶ「モノの見方と見せ方」	2
	①♣ 産業と教育	2	●＊データサイエンス入門 (集中)	2
	①宮崎の地質と自然景観	2	●＊地域産業入門(集中)	2
	①地域文化論	2	●＊薬食同源学入門 (集中)	2
	①国際化入門	2	●＊生活デザイン・ものづくり概論 (集中)	2
	①△日本国憲法	2	●＊日向神話と神楽 (集中)	2
	♣ 文学の魅力を知ろう	1	●＊「短歌県みやざき」ことばの力と牧水入門 (集中)	2
	地域とメディア・コミュニケーション	2	●＊製品開発・ものづくり概論 (集中)	2
	クリエイティブ左脳論	2	♣ 特別支援教育	1
	♣ データサイエンス応用	1		
	映画を楽しむー映画で得られる感動とはー (集中)	2		
	映画を楽しむー映画はどのように戦争を描いて きたかー (集中)	2		
	データサイエンス分析実践 (集中)	1		
	●＊地域キャリアデザイン (集中)	2		
●＊亜熱帯薬食資源学 (集中)	2			
●＊健幸予防医学 (集中)	2			
●＊地方自治と行政 (集中)	2			
●＊プレゼンテーションスキルアップ論 (集中)	2			

	※地域インターンシップ（通年集中）			1
	※地域学入門Ⅱ（A）（通年集中）			2
	※ハイブリッド型地域インターンシップ（「DIVE!ミナキブプロジェクト」、「MIYAZAKI SDGs ACTION」）（通年集中）※1年次から受講可 ※令和5年度休講			1
自然科学系	化学と社会との関わり	2	♣機械と生活の中のトライボロジー（1）－数理－	1
	遺伝子工学の基礎と応用	2	♣機械と生活の中のトライボロジー（2）	1
	数学解析入門 ※1年次から受講可（工学部）	2	Python プログラミング演習	2
	♣感染と免疫	1	人体の構造と機能	2
	① ♣音・光で考える物理学入門Ⅰ	1	♣感染症のエッセンス	1
	① ♣音・光で考える物理学入門Ⅱ	1	◇数学の思考法	2
	①生命科学研究入門	2	① ♣科学技術と私たちの生活	1
	①遺伝子操作入門	2	① 生命と病気	2
			①☆統計学入門	2
外国語系	言語文化概論-A	2	言語文化概論-B	2
	総合ドイツ語Ⅱ	2	◎総合ドイツ語Ⅰ	2
	総合フランス語Ⅱ	2	総合ドイツ語Ⅲ	2
	総合中国語Ⅱ	2	◎総合フランス語Ⅰ	2
	実践中国語Ⅱ	2	総合フランス語Ⅲ	2
	総合韓国語Ⅱ	2	◎実践フランス語Ⅰ	2
	プロジェクト実践英語Ⅰ ※令和5年度休講	2	◎総合中国語Ⅰ	2
	プロジェクト実践英語Ⅱ	2	総合中国語Ⅲ	2
	★コミュニケーション英語Mc1	2	◎実践中国語Ⅰ	2
	☆医療英語（ENP BⅠ）	2	実践中国語Ⅲ	2
	◆英語T3	2	◎総合韓国語Ⅰ	2
	■英語A3（学術英語基礎）	2	総合韓国語Ⅲ	2
	■英語A4（専門コミュニケーション英語）	2	◎実践韓国語Ⅰ	2
	□ビジネス英語Ⅰ-1	2	プロジェクト実践英語Ⅲ	2
	♠アカデミック英語入門 ※令和5年度休講	2	プロジェクト実践英語Ⅳ ※令和5年度休講	2
			★コミュニケーション英語Mc2	2
			◆英語T4	2
		■英語A3（学術英語基礎）	2	
		■英語A4（専門コミュニケーション英語）	2	
		□ビジネス英語Ⅰ-2	2	
	▲中国語現地研修（通年集中）※令和5年度休講			2

- 注1. 適正なクラス規模にするため、科目によっては受講者数を調整する場合があります。
- 注2. 同一名称の科目は、二度受講しても単位は1科目分しか認められません。ただし、同一科目名でローマ数字表記が異なる科目はそれぞれ受講することができ、単位修得が認められます。
- 注3. 生涯スポーツ実践Ⅰ～Ⅳは、教育学部の学生はスポーツ科学Ⅰ及びⅡの2単位を修得後、履修するものとします。また、教員免許を取得しようとする工学部及び農学部等の学生は、生涯スポーツ実践を2単位修得しなければなりません。ただし、本科目は同一学期1科目（1単位）のみの履修とします。
- 注4. ▲印の科目の受講については後記の「中国語現地研修」を参照してください。
- 注5. △印の付いている科目（日本国憲法）は教育学部の必修科目ですので、前学期開講または後学期開講のいずれかを必ず履修してください。
- 注6. 教員免許を取得しようとする学生は、日本国憲法を修得しなければなりません。
- 注7. ★印の付いている科目は医学部医学科の必修科目ですので、必ず履修してください。
- 注8. ☆印の付いている科目は医学部看護学科の必修科目ですので、必ず履修してください。
- 注9. ◆印の付いている科目は工学部の必修科目ですので、必ず履修してください。
- 注10. ■印の付いている科目は農学部の必修科目ですので、必ず履修してください。英語A3（学術英語基礎）及び英語A4（専門コミュニケーション英語）を前学期、後学期1科目ずつ履修することになります。
- 注11. ◇印の付いている科目は農学部応用生物科学科の必修科目ですので、必ず履修してください。

- 注12. □印の付いている科目は地域資源創成学部の必修科目ですので、必ず履修してください。
- 注13. ◎印の付いている科目は初修外国語としてその言語を受講していれば1年次から履修できます。詳細については各科目のシラバスを参照ください。
- 注14. ①印の付いている科目は、工学部、農学部の学生に限り4単位まで1年次から単位取得ができます。
- 注15. ●印の付いている科目は、「宮崎授業配信システム」を通じて講義が配信される「宮崎大学地域教育プログラム科目」です。全学部1年生より履修可能で、好きな時間にパソコンやスマホで受講することができます。
(資格取得の詳細については、学部キャンパスガイドの「宮崎大学地域教育プログラム」をご参照ください)
- 注16. ♣印の付いている科目は、令和5年度クォーター制で実施される科目です。
- 注17. 医印の付いている科目は、医学部の学生用の科目です。
- 注18. ♠印の科目の受講については後記の「アカデミック英語入門」を参照してください。
- 注19. 特別支援教育は、教員免許を取得しようとする工学部、農学部の学生（3年次以上）を優先します。
- 注20. ※印の付いている科目は、「宮崎大学地域教育プログラム科目」です。受講については後記の【宮崎大学地域教育プログラムの資格取得について】を参照してください。

▲「中国語現地研修」について

海外の大学との交流発展及び学生の異文化体験の重要性に鑑み、本学と大学間又は学部間交流協定を締結している大学とのプログラム（「中国語現地研修」）に参加した学生に対し、学士力発展科目として2単位を認定します。受講資格等については、シラバスで確認してください。

「中国語現地研修」：中国語の必修科目（1年生前学期）を履修済みの学生が、中国語圏の大学に1週間程度滞在し、中国語や中国文化の授業を受ける科目です。滞在中には受け入れ先大学の学生との交流も行われます。本科目は、履修者の個々の語学力を高めると同時に、中国の社会や文化についてより深く理解することを目的とします。なお、実施時期は2月後半から3月前半頃、滞在先としては中華人民共和国にある本学の学術交流協定校を予定しています（具体的な大学名は開講時に発表予定）。本科目の実施は、実施先大学との協議が必要であり、必ずしも毎年度開講できるものではありません。

※令和5年度は休講となります。

♠「アカデミック英語入門」について

「アカデミック英語入門」：在学中に長期留学（6ヶ月以上）を考えている学生を対象にした授業と関連する短期留学プログラムです。海外大学の授業で必要とする基本的な能力である論文の書き方やプレゼンテーションのスキルを学びます。受講者の前提は、アカデミック英語を中心とする2週間ほどのハワイ大学マノア校で行われる留学プログラムに参加することです。授業と海外プログラムによって、英語能力をアップするだけでなく、アカデミック英語という特殊な知識を得て、長期留学等の準備にしっかりと対応します。 ※令和5年度は休講となります。

※【宮崎大学地域教育プログラムの資格取得について】

地域で活躍する社会人の話を聞いたり、地域と人と関わりを持ちながら学修したりすることを通じて、様々な分野で活躍できる人材を育成します。プログラムでは、座学、実習、オンライン型、プロジェクト型、インターンシップなど様々な形式の科目が用意されており、地域を学び、そのリーダーになりたい人は「地域活性化・学生マイスター」、地域の産業を広く学び、地元就職したい人は「みやざき産業人材認定証」、もしくはその両方の資格取得が可能です。

それぞれの資格には、公務員講座の受講料一部免除や県内企業の採用におけるインセンティブなどの特典があり、資格取得者は利用することができます。

詳しい履修プログラムは、各所属学部のキャンパスガイドに掲載している本資格取得についてのページ、もしくは『宮崎大学地域教育プログラムホームページ(<https://www.miyazaki-u.ac.jp/meister>)』を参照してください。(右記QRコード)



【数理・データサイエンス・AI 教育について】

本学では、2019 年度～2021 年度において、大学の数理・データサイエンス教育の全国展開における協力校として取り組みを進めてきました。引き続き、Society5.0 で求められる数理的思考力を身に付けた人材の育成を図るため、情報・データリテラシーや学士力発展科目などに動画コンテンツ教材や演習を導入し、文・理を問わないリテラシーレベルでの数理・データサイエンス・AI 教育を充実させる教育プログラムを全学的に進めています。

既に関連する科目は複数開講されていますが、数理・データサイエンス・AI 教育に係る授業科目が新たに開講された場合、メールや掲示等でお知らせします。

5. 基礎教育の受講及び試験に関する手続き一覧表

学期	項目	提出又は登録先	願(届)提出(登録)期日等	摘要
前学期	受講科目登録	Web 上又は基礎教育支援課で	定める期日まで	受講する授業科目(集中講義を含む)のすべてを登録すること。
	特別欠席願	所属学部教務担当係	事由発生後速やかに	特別欠席が許可され、欠席の補填措置があった場合、欠席回数に加算されない。
	定期試験*		8月上旬	クォーター制(第1期)科目の場合は6月上旬
	追試験届	基礎教育支援課	定期試験期間終了後10日以内	*特別欠席を許可された者について、定期試験期間終了後30日以内に担当教員が適宜実施
	定期試験・追試験成績発表		試験終了後1週間以内	Web 上で担当教員が発表する
	再試験 (前学期のみで終了するもの)		9月中旬	受験できるのは、合否発表で「保留」となった者のみ。再試験の内容は掲示を確認すること。
	再試験成績発表 (前学期のみで終了するもの)		試験終了後1週間以内	Web 上で担当教員が発表する
後学期	受講科目登録	Web 上又は基礎教育支援課で	定める期日まで	前学期に同じ
	特別欠席願	所属学部教務担当係	事由発生後速やかに	〃
	定期試験*		2月上旬	クォーター制(第3期)科目の場合は11月下旬
	追試験届	基礎教育支援課	定期試験期間終了後10日以内	前学期に同じ
	定期試験・追試験成績発表		試験終了後1週間以内	Web 上で担当教員が発表する
	再試験		3月上旬	受験できるのは、合否発表で「保留」となった者のみ。再試験の内容は掲示を確認すること。
	再試験成績発表		試験終了後1週間以内 (卒業年次は速やかに)	Web 上で担当教員が発表する

*定期試験期間中に特別欠席に該当する理由が発生した場合は、直ちに基礎教育支援課へ連絡 (tel:0985-58-7133) すること。

6. カリキュラム・マトリックス

カリキュラム・マトリックスとは、カリキュラム（授業科目情報の一覧）に対してディプロマ・ポリシーで掲げる、育成する能力と個々の授業科目の対応関係を示したものです。

区分	科目群	ディプロマ・ポリシー										
		人間性・社会性・国際性			主体的に学ぶ力	コミュニケーション能力		課題発見・解決力		知識・技能		
		倫理観	チームワーク	多文化・異文化理解	主体的に学ぶ力	言語リテラシー	他者理解・自己表現力	情報リテラシー	問題解決力	文化・社会・自然・地域の理解	専門知識・技能	
導入科目	大学教育入門セミナー		○	○		◎		○		○+	+	
	情報・データリテラシー		○						◎	+	+	
	外国語コミュニケーション	英語 a1, a2			○		◎					
		英語 b1			○		◎			(+)	(+)	
		英語 b2			○		◎			+	+	
		初修外国語			◎		○					
	保健体育			◎		○		○				
専門基礎											◎	
課題発見科目	専門教育入門セミナー		◎			○		○		○+	+	◎
	環境と生命			○		○		○		◎+	○+	
	現代社会の課題	社会と人間		○		○		○		◎	○	
	現代社会の課題	自然の仕組み		○		○		○		◎	○	
学士力発展科目	地域・学際系				○			○		(+)	◎	(+)
	自然科学系										◎	
	外国語系				○		◎					

※学部・学科等により一部異なる場合があります。

＋：宮崎大学地域教育プログラム関連科目

()：全ての科目が対象ではありません。

7. 関係諸規程等

【1】宮崎大学基礎教育科目履修規程

平成16年4月1日
制 定

改正 平成22年9月22日 平成26年2月27日
平成28年10月27日 平成30年3月30日

(趣旨)

第1条 この規程は、宮崎大学学務規則（以下「規則」という。）第15条第1項の規定に基づき、基礎教育科目で開設する授業科目、単位数及び履修方法等について定めるものとする。

(科目区分、授業科目及び単位数)

第2条 基礎教育科目は、導入科目、課題発見科目及び学士力発展科目に区分する。なお、導入科目は大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育及び専門基礎の5科目群で、課題発見科目は専門教育入門セミナー、環境と生命及び現代社会の課題の3科目群で構成する。

2 開設される授業科目及び単位数は別に定める。

3 前2項の規定にかかわらず、グローバル人材育成学部教育プログラムにより入学する者に適用される基礎教育科目の科目区分、授業科目及び単位数は別に定める。

(履修方法)

第3条 学生は、基礎教育科目で開設される授業科目を基礎教育科目一覧表にしたがって、各学部・学科(課程)が定める単位数以上を修得しなければならない。

(単位の計算方法)

第4条 基礎教育科目で開設する授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とし、授業の方法に応じ次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技等については、30時間をもって1単位とする。

(受講年次、受講手続及び試験)

第5条 基礎教育科目の各科目群で開設される授業科目の受講年次、受講手続及び試験については別に定める。

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 規則附則第2項の規定に基づき、平成16年3月31日に旧宮崎大学及び旧宮崎医科大学に在学する者（以下「在学者」という。）並びに在学者の属する年次に再入学等する者については、この規程の規定にかかわらず、旧宮崎大学及び旧宮崎医科大学の規程等の定めるところによる。

附 則

この規程は、平成22年10月1日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 平成26年3月31日に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に再入学、編入学又は転入学（以下「再入学等」という。）する者並びに平成26年度に医学部看護学科に入学する者（以下「入学者」という。）及び入学者の属する年次に再入学等する者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成28年10月27日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

【2】宮崎大学基礎教育科目の受講及び成績評価に関する細則

〔平成16年4月1日
制 定〕

改正 平成22年9月30日 平成24年3月29日
平成26年3月31日 平成29年3月31日
平成31年4月26日 令和元年12月19日
令和3年3月25日 令和4年9月30日

(趣旨)

第1条 この細則は、宮崎大学基礎教育科目履修規程（以下「履修規程」という。）第5条の規定に基づき、基礎教育科目の受講手続及び試験等に関し、必要な事項を定める。

(受講科目登録)

第2条 学生は、履修規程に基づき基礎教育科目で開設される授業科目を受講するときは、受講科目を所定の手続により別に定める期日までに登録しなければならない。

(成績評価を受ける資格)

第3条 各授業科目においては、所定時間数の75%以上出席しなければ成績評価を受ける資格を得ることはできない。

2 各授業科目の受講に遅刻又は早退があるときは、3回の遅刻又は早退をもって1回の欠席とみなす。

(特別欠席の取扱い)

第4条 次に掲げる理由により欠席した者は、速やかに、所定の特別欠席願を在籍学部の教務・学生支援係、医学部にあっては医療人育成課に提出し、欠席する授業の担当者に特別欠席を願い出ることができる。原則として、授業担当者は欠席の補填措置を行い、特別欠席を欠席数に加算しないものとする。

(1) 忌引

父母及び配偶者にあつては7日、子にあつては5日、祖父母及び兄弟姉妹にあつては3日とする。

(2) 天災

必要と認める日・時間

(3) 学校保健安全法に定める感染症に該当するとき。

医師の証明に基づく治療に必要な期間。ただし、4週間以上の長期にわたる場合を除く。

(4) 大学で主催する文化及び体育等の課外活動で、主催大学の副学長等から正式の派遣依頼があり副学長（教育・学生担当）が認めたとき、又は大学以外の団体等が主催するもので学長が認めたとき。

派遣依頼の期間又は承認した期間。ただし、回数及び期間については別に定める。

(5) その他やむを得ない事情と学び・学生支援機構基礎教育教務・質保証委員会（以下「教務・質保証委員会」という。）が認めたとき。

(定期試験)

第5条 定期試験は、前学期及び後学期に開講した授業科目について、公示のうえ実施する。

(追試験)

第6条 受験資格を有し、第4条に掲げる理由により定期試験を受験できなかった者は、追試験を1回に限り受験することができる。

2 追試験は、定期試験期間終了後30日以内に担当教員が適宜実施するものとし、受験を希望する者は、所定の追試験届を定期試験期間終了後10日以内に学び・学生支援機構事務部基礎教育支援課に提出しなければならない。

(成績評価の合否発表等)

第7条 成績評価は、各授業科目で定める評価基準に基づき、定期試験又は追試験の成績等で行われる。

2 成績評価の合否発表は、合格（60点以上）、保留（59点から30点まで）、不合格（29点以下）の3段階で行い、合否の結果は、当該授業科目の試験終了後1週間以内、試験を実施しない場合は試験期間の開始日から1週間以内に在籍学部に掲示する。

(再評価)

第8条 成績評価で保留となった者は、再評価を1回に限り受けることができる。

- 2 再評価は、再試験又は他の評価方法により行う。
- 3 再試験は、前学期を9月中旬、後学期を3月上旬に公示のうえ実施する。
- 4 再評価の可否発表は、合格及び不合格の2段階で行い、可否の結果は、当該授業科目の試験終了後1週間以内、再試験を実施しない場合は再試験期間の開始日から1週間以内に在籍学部に掲示する。
- 5 再評価は60点を上限とし、59点以下を不合格とする。

(授業科目担当教員不在の場合)

第9条 授業科目担当教員が転任又は退職等で不在となったときの成績評価及び再評価は、基礎教育分野別部会及び教務・質保証委員会との協議により実施する。

(再受講)

第10条 成績評価及び再評価で不合格になった者は、第2条に定める受講手続きを行い、再受講することができる。

(成績評価)

第11条 成績評価は、秀、優、良、可、不可の5種の評語をもって表し、秀、優、良、可を合格とする。なお、それぞれの成績評価基準及び対応する評点は、各教員が定める科目の到達目標に従って次のとおりとする。

秀：科目の到達目標に特に優秀な水準で達している（評点：90点以上）

優：科目の到達目標に優秀な水準で達している（評点：89～80点）

良：科目の到達目標に良好な水準で達している（評点：79～70点）

可：科目の到達目標に必要最低限の水準で達している（評点69～60点）

不可：科目の到達目標の必要最低限の水準に達していない（評点：59点以下）

(成績評価に関する申立て)

第12条 成績評価を受けた者は、成績評価に異議がある場合には、原則として当該学期内に基礎教育支援課を通じて学び・学生支援機構基礎教育部門長に申立てをすることができる。詳細については別に定める。

(不正行為)

第13条 不正行為をした者は、学則により懲戒され、併せて当該学期の基礎教育科目の成績評価は、すべて無効とする。

- 2 不正行為の事実確認は、別紙様式により行うものとする。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年10月1日から施行する。ただし、改正後の題名、第1条、第2条及び第12条の規定は、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和元年5月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和4年10月1日から施行する。

【3】基礎教育科目の定期試験等の受験心得

平成16年4月1日
共通教育協議会決定

改正 平成26年4月1日

基礎教育科目の受講及び成績評価に関する内規に定める定期試験、追試験及び再試験における学生の受験時の心得について、下記のとおり定める。なお、科目によって別に指示がある場合にはその指示に従うものとする。

1 試験室への入室について

試験室には、前の試験の監督者が退室するまでは入室できない。

2 問題・答案用紙について

- (1) 学籍番号、入学年度、学部名、学科・課程名及び氏名を必ず記入すること。
- (2) 答案用紙は、退室時に本人が持参のうえ監督者に提出するものとする。
- (3) 試験時間内に問題を室外に持ち出すことを厳禁する。

3 遅刻及び退室について

- (1) 遅刻： 試験開始時刻から20分を経過した場合は、入室は認められない。
- (2) 退室： 試験開始時刻から30分を経過しなければ退室は認められない。

4 学生証の提示について

学生証は、受験中必ず机の上に置いておくこと。不所持の学生は仮受験票の発行を監督者に申し出ること。

5 用具等の持込について

机には、筆記用具及び許可されたもの以外（携帯電話、PHS等を含む）を置いてはならない。

6 用具等の貸借について

試験中の用具等の貸借は、原則として許可しない。

7 その他

カンニング等の不正行為（本心得の禁止事項及び科目ごとの指示を含む）をした者は、学則により停学等の懲戒に処せられ、併せて当該学期の基礎教育科目の試験及びその他レポート等の審査の成績評価は、すべて無効となる。

附 則

この申合せは、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この申合せは、平成24年6月20日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

附 則

この申合せは、平成26年4月1日から施行する。

【4】基礎教育科目の成績評価に対する申立てに関する申合せ

〔平成27年1月27日〕
制 定

改正 平成28年4月1日 平成29年3月10日
令和3年3月25日 令和3年11月19日
令和4年9月28日

- 1 この申合せは、宮崎大学基礎教育科目の受講及び成績評価に関する細則第12条の規定に基づき、成績評価に対する申立てに関して、必要な事項を定める。
- 2 成績評価に対して異議がある場合、その成績評価を受けた者に限り原則として当該学期内に基礎教育支援課を通じて別紙により学び・学生支援機構基礎教育部門長（以下「基礎教育部門長」という。）宛に申立てをすることができる。
- 3 成績評価に対する申立てを基礎教育部門長が受けた場合、基礎教育部門長は適宜、学生及び担当教員から事情を聴取し、その結果を踏まえて学び・学生支援機構基礎教育教務・質保証委員会において協議し、対処するものとする。
- 4 基礎教育部門長は、申立てをした学生に対して対処結果を通知するものとする。

附 則

この申合せは、平成28年4月1日から実施する。

附 則

この申合せは、平成29年4月1日から実施する。

附 則

この申合せは、令和3年4月1日から実施する。

附 則

この申合せは、令和3年11月19日から実施する。

附 則

この申合せは、令和4年10月1日から実施する。

学び・学生支援機構基礎教育部門長 殿

成績評価に対する申立て(基礎教育科目)

申立日	年 月 日	
申立者	氏 名 : 学籍番号 :	
授業科目名 (授業担当教員)	()	
【具体的な内容】 (記述)		
以下、大学記入欄		
基礎教育支援課提出日	基礎教育教務・質保証委員会 による審議日	学生へ回答した日
年 月 日	年 月 日	年 月 日

【提出先：基礎教育支援課】

【5】宮崎大学における外国人留学生の履修方法の特例に関する細則

〔平成16年4月1日
制 定〕

改正 平成19年6月8日 平成22年9月30日
平成26年3月31日 平成28年3月17日
令和3年3月25日 令和4年9月30日

(趣旨)

第1条 この細則は、宮崎大学学務規則（以下「規則」という。）第47条第3項の規定に基づき、宮崎大学に入学した外国人留学生（以下「留学生」という。）の授業科目及び履修方法について定めるものとする。

(日本語科目及び日本事情に関する科目の授業科目及び単位数)

第2条 日本語科目及び日本事情に関する科目（以下「日本語科目等」という。）として開設する授業科目及び単位数は、別に定める。

2 授業計画上やむを得ない場合は、学び・学生支援機構基礎教育教務・質保証委員会（以下「教務・質保証委員会」という。）の議を経て、授業科目及び単位数の一部を変更することがある。

(短期集中プログラム)

第3条 短期集中プログラムにおいて、授業科目と単位数については、別に定める。

(単位の取扱い)

第4条 学部留学生が日本語科目等に関する授業科目を履修し単位を修得したときは、教務・質保証委員会の議を経て基礎教育科目の単位の読み替えることができる。詳細については別に定める。

附 則

- 1 この細則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 規則附則第2項の規定に基づき、平成16年3月31日に旧宮崎大学に在学する者については、本細則の規定にかかわらず、なお旧宮崎大学の規程等の定めるところによる。

附 則

この細則は、平成19年6月8日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年10月1日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この細則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日に在学する者については、なお従前の例による。

附 則

この細則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和4年10月1日から施行する。

【6】宮崎大学学部留学生に対する基礎教育科目単位に関する取扱い

平成 30 年 3 月 15 日
基礎教育委員会決定

改正 令和 3 年 3 月 25 日 令和 4 年 9 月 28 日

(趣旨)

第 1 この取扱いは、宮崎大学における外国人留学生の履修方法の特例に関する細則第 4 条に関し、宮崎大学外国人留学生規程第 2 条第 1 号に規定する学部留学生のうち、グローバル人材育成学部教育プログラムで入学した者を除く学部学生（以下「学部留学生」という。）に係る基礎教育科目の単位の取扱いに関し、必要な事項を下記のとおり定める。

(単位の上限)

第 2 学部留学生が、日本語科目等（入門、初級日本語、初中級日本語及び中級日本語を除く。）に関する授業科目を履修し単位を修得したときは、次の各号に掲げる外国語コミュニケーション及び学士力発展科目の単位に読み替えることができる。なお、具体的な科目等については、各学部の履修指導に従うこととする。

- (1) 外国語コミュニケーション（英語及び初修外国語の 2 科目群）については 12 単位まで
- (2) 学士力発展科目については 14 単位まで

(読み替えの手続き)

第 3 読み替えの手続きは、学部留学生の所属学部がとりまとめを行い、学部留学生ごとに基礎教育科目単位読み替え表を作成し、学び・学生支援機構基礎教育教務・質保証委員会（以下「教務・質保証委員会」という。）へ提出するものとする。

- 2 教務・質保証委員会は、前項により提出された読み替え表に基づき、読み替えの決定を行うものとする。

附 則

この取扱いは、平成 30 年 4 月 1 日から実施し、平成 28 年度入学の学部留学生から適用する。

附 則

この取扱いは、令和 3 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この取扱いは、令和 4 年 10 月 1 日から実施する。

令和5年度日本語科目等の開講科目

レベル	科目名	単位数	日本語能力試験
入門	入門日本語Ⅰ-A	2	
	入門日本語Ⅰ-B	2	
	入門日本語Ⅱ-A	2	
	入門日本語Ⅱ-B	2	
	入門日本語Ⅲ-A	2	
	入門日本語Ⅲ-B	2	
初級	初級日本語Ⅰ-A	2	N5
	初級日本語Ⅰ-B	2	
	初級日本語Ⅱ-A	2	
	初級日本語Ⅱ-B	2	
	初級日本語Ⅲ-A	2	
	初級日本語Ⅲ-B	2	
初中級	初中級日本語Ⅰ-A	2	N4
	初中級日本語Ⅰ-B	2	
	初中級日本語Ⅱ-A	2	
	初中級日本語Ⅱ-B	2	
	初中級日本語Ⅲ-A	2	
	初中級日本語Ⅲ-B	2	
中級	中級日本語Ⅰ-A	2	N3
	中級日本語Ⅰ-B	2	
	中級日本語Ⅱ-A	2	
	中級日本語Ⅱ-B	2	
	中級日本語Ⅲ-A	2	
	中級日本語Ⅲ-B	2	
*中上級	中上級日本語Ⅰ-A	2	N2
	中上級日本語Ⅰ-B	2	
	中上級日本語Ⅱ-A	2	
	中上級日本語Ⅱ-B	2	
	中上級日本語Ⅲ-A	2	
	中上級日本語Ⅲ-B	2	
*上級	上級日本語Ⅰ-A	2	N1
	上級日本語Ⅰ-B	2	
	上級日本語Ⅱ-A	2	
	上級日本語Ⅱ-B	2	
	上級日本語Ⅲ-A	2	
	上級日本語Ⅲ-B	2	
	上級日本語Ⅳ-A	2	
	上級日本語Ⅳ-B	2	
*超上級	超上級日本語Ⅰ-A	2	
	超上級日本語Ⅰ-B	2	
*中級以上	中級ビジネス日本語-A	2	原則、 中級日本語 修了者 以上
	中級ビジネス日本語-B	2	
	上級ビジネス日本語-A	2	
	上級ビジネス日本語-B	2	
	日本語地域インターンシップ-I (集中)	2	
	日本語地域インターンシップ-II (集中)	2	
	日本事情概論-A (各学部)	2	
	日本事情概論-B (各学部)	2	

*学部留学生が読み替え可能な日本語科目等/A:前学期 B:後学期/開講年度で変更あり。

【7】外国語科目の単位認定の取扱い

平成31年3月14日
基礎教育委員会
決 定

改正 令和4年9月28日

本学学務規則第21条の規定に基づき、外国語科目の単位認定の取扱いについて、下記のとおり定める。

記

1. 認定する科目名及び単位数等について

文部科学大臣が定める学修（以下「対象とする学修」という。）を、本学における授業科目の履修とみなして認定する科目及び単位は下表のとおりとし、対象とする学修を取得した場合は、本学の成績に点数化した上、基礎教育科目の該当する外国語科目の単位に充てるものとする。

ただし、平成25年度以前入学者に対する認定科目及び単位は、下表にかかわらず入学年度の学生便覧によるものとする。

学部区分	対象とする学修		認定科目	認定単位
教育学部	実用英語技能検定（英検）	1級	英語Da 英語Db	4
	TOEIC試験	730点以上		4
工学部	TOEFL試験（iBT）	79点以上	英語Da	4
農学部 地域資源創成学部	実用英語技能検定（英検）	準1級		
	TOEIC試験	650点～729点		
	TOEFL試験（iBT）	70点～78点		

2. 単位認定の申請について

前項に定める対象とする学修を取得した者は、試験結果の証明書（入学以前・以後を問わない。）を添付の上、別紙により所属学部長に申請しなければならない。

なお、申請の流れについては、以下のとおりとする。

1. 認定申請書提出	学生 ⇒ 各学部長
2. 単位認定	教授会の議を経て、学部長が認定
3. 認定結果通知	学部長 ⇒ 基礎教育部長 学部長 ⇒ 学生（申請者）

3. 点数化の方法及び成績原簿等の表記例について

(1) 点数化の方法

・英語D

区分	換算方法
英検 (準1級以上)	準1級 ⇒ 85点 1級 ⇒ 95点
TOEIC (650点以上)	満点800点と仮定し、本学の100点に換算して点数化する。 (例：650点 ⇒ 81点[優]；730点 ⇒ 91点[秀]) ※小数点以下は切り捨て。また、換算結果が100点以上になる場合は全て100点とする。
TOEFL (iBT70点以上)	満点87点と仮定し、本学の100点に換算して点数化する。 (例：70点 ⇒ 80点[優]；79点 ⇒ 90点[秀]) ※小数点以下は切り捨て。また、換算結果が100点以上になる場合は全て100点とする。

(2)成績原簿等の表記例

- ・成績原簿 ⇒ 【80：認定（優）】；【90：認定（秀）】
- ・成績証明書 ⇒ 【認定（優）】；【認定（秀）】

附 則

- 1 この取扱いは、平成26年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この取扱いは、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成25年度以前の教育文化学部入学者に対する認定科目及び単位は、入学年度の学生便覧によるものとする。
- 3 平成26年度及び平成27年度の教育文化学部入学者に対する認定科目及び単位等は、「1. 認定する科目名及び単位数等について」に定める表を適用するものとする。

附 則

- 1 この取扱いは、令和4年10月1日から施行する。

(別 紙)

外国語科目の単位認定申請書

令和 年 月 日

学部長 殿

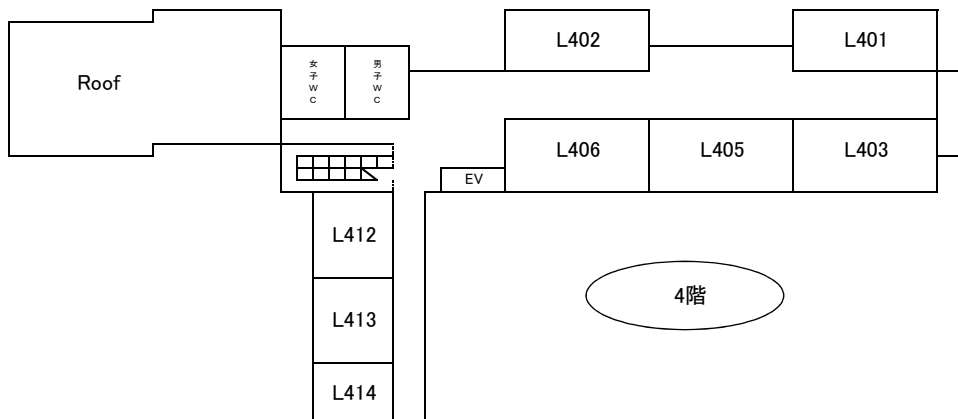
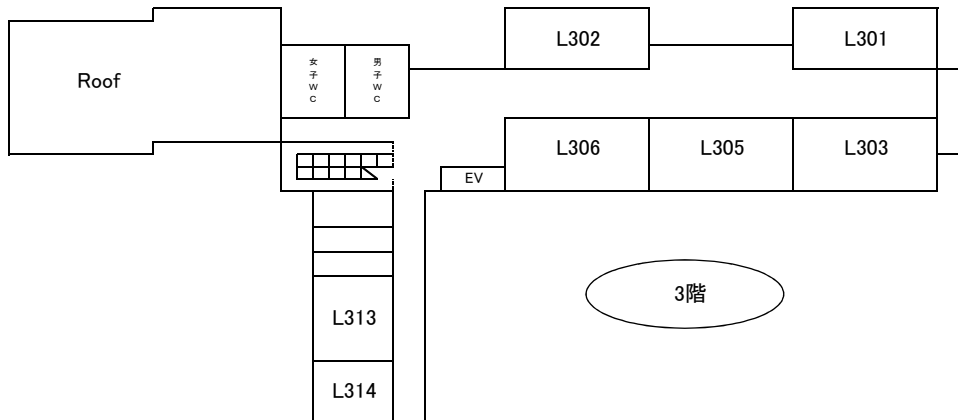
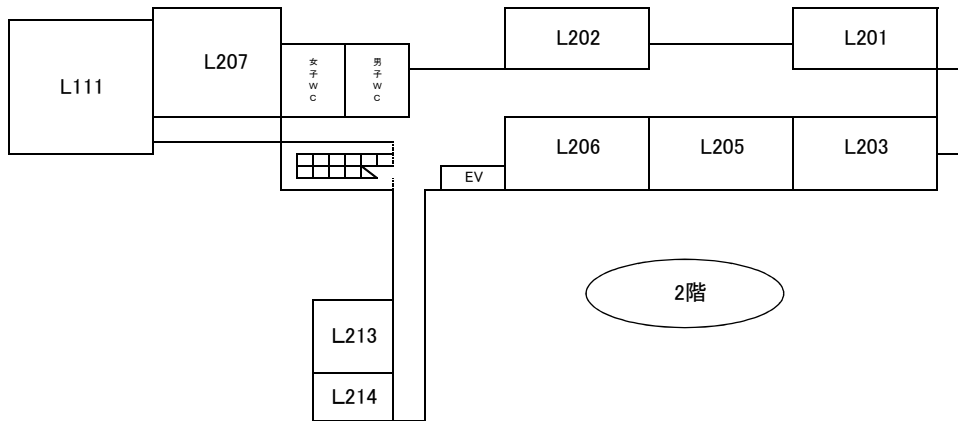
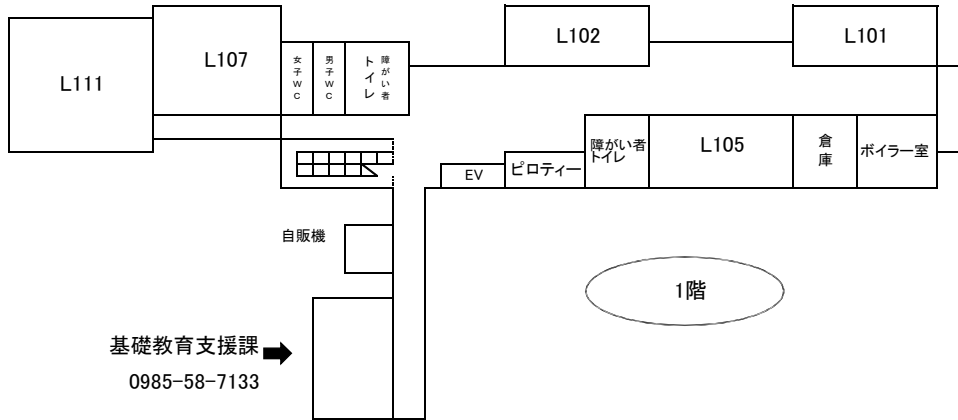
入学年度（平成・令和）	年度
学籍番号	
学 部	学部
学科・課程	学科・課程
氏 名（自署）	

私は、別紙のとおり（英検・TOEIC・TOEFL 試験）において、本学の単位認定条件を満たす成績を取得しましたので、本学基礎教育科目の外国語科目〔英語 D〕として認定していただきますよう申請いたします。

注1. 添付する別紙（証明書等）は原本を提出してください。

注2. （ ）内は、該当する箇所に○印を付してください。

8. 教育学部・地域資源創成学部講義棟教室配置図



9. 基礎教育担当教員名簿

役 職	氏 名	所 属
基礎教育部門長	石川 千佳子	教育学部

※「現代社会の課題」、「学士力発展科目」及び「外国語科目」の担当教員を掲載。
(担当教員は変更になることがあります)

現代社会の課題

科目名	教員名	所 属
人間の心と行動	小澤 拓大/境 泉洋/尾之上 高哉/ 高橋 高人	非常勤講師、教育学部
美術と文化ー美術鑑賞から異文化理解へー	石川 千佳子	教育学部
音楽と人間	酒井 勇也	教育学部
暮らしを見つめる	藤本 明弘	教育学部
風土・地域と人間	中村 周作	教育学部
現代社会と歴史(1)ー近現代日本とアジア(外交と戦争)ー	関 周一	教育学部
現代社会と歴史(2)ーヨーロッパと日本、その歴史と文化ー	中堀 博司	教育学部
現代社会と家族	松岡 崇暢	地域資源創成学部
現代社会と子供・青年	深見 奨平	教育学部
現代社会と法	足立 文美恵	地域資源創成学部
大学と学生	藤嶺 智一	教学マネジメント部門(学び)
「私」のキャリアとライフデザイン	伊達 紫	フロンティア科学総合研究センター
障がい者支援入門	楠元 和美	安全衛生保健センター
国際協力入門ー世界を舞台に活躍するー	伊藤 健一/河野 久/矢野 靖典	国際連携センター(国際)
人口減少社会における公民連携(PPP)のまちづくり	桑野 斉	地域資源創成学部
現代ドイツへの招待ー多面体として見る異文化社会ー	胡屋 武志	多言語多文化教育研究センター(国際)
SDGs時代の開発経済学入門	河野 久/伊藤 健一/矢野 靖典	国際連携センター(国際)
ソーシャルデザイン	谷田貝 孝	地域資源創成学部
マイノリティから見る世界：一枚岩ではない世界の歴史と社会	松井 真之介	多言語多文化教育研究センター(国際)
地域学入門Ⅰ(A)	高橋 利行/その他教員	産学・地域連携部門(研・産)
地域学入門Ⅰ(B)	高橋 利行/その他教員	産学・地域連携部門(研・産)
生と死の倫理学	柏葉 武秀	教育学部
生物科学	西田 伸	教育学部
統計データによる地域課題分析	藤井 良宜	教育学部
物質と電気の科学	太田 靖之/荒井 昌和	工学部
情報科学	内山 良一/山森 一人	工学部

※ 所属の「(学び)」、「(研・産)」、「(国際)」は、「学び・学生支援機構」、「研究・産学地域連携推進機構」、「国際連携機構」を意味する。

学士力発展科目

科目名	教員名	所 属
○地域・学際系		
博物館概論	宇田津 徹朗/深見 裕伸/村瀬 敦宣/ 石川 千佳子	農学部、教育学部
産業と教育	藤埴 智一	教学マネジメント部門 (学び)
現代アメリカ入門	河野 久/シャワティエ・エドワード・マイケル/ 矢野 靖典/伊藤 健一	国際連携センター (国際)、 多言語多文化教育研究センター (国際)
生涯学習論	高橋 利行	産学・地域連携部門 (研・産)
マーケティング入門	土屋 有	地域資源創成学部
日本の恋歌ー和歌・短歌と歌謡曲ー	中村 佳文	教育学部
健康科学概論	野間口 千香穂/医学部教員	医学部
宮崎の地質と自然景観	山北 聡	教育学部
金融リテラシー講座	桑野 斉/杉山 智行/谷田貝 孝	地域資源創成学部
ベンチャービジネス入門	丹生 晃隆/土屋 有	地域資源創成学部
日本国憲法 (前学期)	渡邊 譽	非常勤講師
日本国憲法 (後学期)	箕輪 さくら	地域資源創成学部
地域文化論	中村 周作	教育学部
国際化入門	伊藤 健一//河野 久/矢野 靖典	国際連携センター (国際)
魚・家畜・草の文化論	飛佐 学/農学部教員	農学部
日本の自然と災害 (前・後学期)	大平 明夫	教育学部
変貌する21世紀の世界ーさまざまな地域の社会と文化	胡屋 武志/金 智賢/松井 真之介/ 松永 稔也/横山 彰三 /張 婧禕/ シャワティエ・エドワード・マイケル	多言語多文化教育研究センター (国際)、 医学部
ラーニングポートフォリオ入門セミナー：自分の学びを記録しふり返る	藤埴 智一	教学マネジメント部門 (学び)
九州学Ⅰ (集中)	石井 康之、中村 佳文	農学部、教育学部
九州学Ⅱ (集中)	石井 康之、中村 佳文	農学部、教育学部
生涯スポーツ実践Ⅰ	宇土 昌志/志々目 由理江/塩瀬 圭佑	教育学部
生涯スポーツ実践Ⅱ	志々目 由理江	教育学部
生涯スポーツ実践Ⅲ	宇土 昌志/佐々 敬政/志々目 由理江	教育学部
生涯スポーツ実践Ⅳ	志々目 由理江	教育学部
地域デザイン概論Ⅰ	杉山 智行/中山 隆	地域人材部門 (学び)
地域デザイン概論Ⅱ	杉山 智行/中山 隆	地域人材部門 (学び)
市民参加の地域づくり	松岡 崇暢	地域資源創成学部
経営学入門	丹生 晃隆	地域資源創成学部
宮崎の近代と戦争	関 周一	教育学部
映画を楽しむー映画で得られる感動とはー (集中)	酒井 正博	農学部
映画を楽しむー映画はどのように戦争を描いてきたかー (集中)	酒井 正博	農学部
生命保険論から社会人基礎力を涵養する	藤本 将人/石川 千佳子	教育学部、基礎教育部門 (学び)
言語学入門	金 智賢	多言語多文化教育研究センター (国際)

ファイナンシャル・プランニング講座	河原 聡	キャリアサポート専門委員会
文学の魅力を知ろう	新名 桂子/井崎 浩	教育学部
地域とメディア・コミュニケーション	土屋 有	地域資源創成学部
言語/文化的多様性と地域社会	松永 稔也	多言語多文化教育研究センター (国際)
NVC で育む対話能力	横山 彰三	医学部
データサイエンス応用	高橋 伸弥/山森 一人	工学部
データサイエンス分析実践 (集中)	藤井 良宜	教育学部
データサイエンス入門 (集中)	藤井 良宜	教育学部
地域キャリアデザイン (集中)	杉山 智行/中山 隆	地域人材部門 (学ひ)
亜熱帯薬食資源学 (集中)	甲斐 久博	地域人材部門 (学ひ) (非常勤講師)
健康予防医学 (集中)	江藤 敏治	地域人材部門 (学ひ) (非常勤講師)
生活デザイン・ものづくり概論 (集中)	杉本 弘文	地域人材部門 (学ひ) (非常勤講師)
地方自治と行政 (集中)	有馬 晋作	地域人材部門 (学ひ) (非常勤講師)
ヘルスサイエンス	武田 龍一郎	安全衛生保健センター
外国語習得論	張 婧禕	多言語多文化教育研究センター (国際)
現代社会と共生	深見 奨平	教育学部
「人生の各ステージにおける学び」と博物館	藤本 将人/宇田津 徹朗	教育学部、農学部
宮崎の産業と産学・地域連携	小林 太一	産学・地域連携部門 (研・産)
医療人文学入門：ナラティブから医療を考える	横山 彰三/SIMPSON ALAN/ 南部 みゆき	医学部
地域産業入門 (集中)	杉山 智行/中山 隆	地域人材部門 (学ひ)
薬食同源学入門 (集中)	榎原 啓之/甲斐 久博	農学部、 地域人材部門 (学ひ) (非常勤講師)
プレゼンテーションスキルアップ論 (集中)	吉井 千周	地域人材部門 (学ひ) (非常勤講師)
日向神話と神楽 (集中)	大館 真晴	地域人材部門 (学ひ) (非常勤講師)
「短歌県みやざき」ことばの力と牧水入門 (集中)	中村 佳文	教育学部
製品開発・ものづくり概論 (集中)	高橋 明宏	地域人材部門 (学ひ) (非常勤講師)
クリエイティブ左脳論	田中 雄之	地域資源創成学部
博物館に学ぶ「モノの見方と見せ方」	宇田津 徹朗/石川 千佳子	農学部、教育学部
地域学入門Ⅱ (A) (通年集中)	高橋 利行/その他教員	産学・地域連携部門 (研・産)、 非常勤講師
地域学入門Ⅱ (B)	藤掛 一郎/高橋 利行	農学部、 産学・地域連携部門 (研・産)
地域インターンシップ (通年集中)	高橋 利行	産学・地域連携部門 (研・産)
特別支援教育	尾崎 充希/若林 上総/盛満 弥生	教育学部
○自然科学系		
化学と社会との関わり	中林 健一	教育学部
Python プログラミング演習	松澤 英之	情報基盤センター
音・光で考える物理学入門Ⅰ	秋山 博臣	教育学部
音・光で考える物理学入門Ⅱ	秋山 博臣	教育学部

生命科学研究入門	西頭 英起/武谷 立/その他教員	医学部、フロンティア科学総合研究センター
科学技術と私たちの生活	関戸 知雄/工学部教員	工学部
遺伝子操作入門	片山 哲郎/榊原 陽一/その他教員	フロンティア科学総合研究センター、農学部
遺伝子工学の基礎と応用	上地 珠代	医学部
生命と病気	和田 啓	医学部
数学の思考法	山口 尚哉	教育学部
機械と生活の中のトライボロジー (1) -数理-	古池 仁暢/宮内 優	工学部
機械と生活の中のトライボロジー (2)	古池 仁暢/宮内 優	工学部
統計学入門	藤井 良宜	教育学部
数学解析入門	梅原 守道	工学部
人体の構造と機能	高橋 伸育/石塚 匠	医学部
感染と免疫	佐藤 克明/丸山 治彦	医学部
感染症のエッセンス	新 竜一郎/岡林 環樹	医学部、農学部

外国語科目等

科目名	教員名	所属
英語	井崎 浩	教育学部
英語	新名 桂子	教育学部
英語	ロビン・リード	教育学部
英語	興津 紀子	教育学部
英語	本多 正敏	教育学部
英語	早瀬 沙織	教育学部
英語	横山 彰三	医学部
英語	南部 みゆき	医学部
英語	シンプソン・アラン・マーク	医学部
英語	平井 悠	医学部
英語	川崎 典子	工学部
英語	山本 佳代	多言語多文化教育研究センター (国際)
英語	ホンブ・エミ	多言語多文化教育研究センター (国際)
英語	シャワティール・エドワード・マイケル	多言語多文化教育研究センター (国際)
英語	矢野 涼子	多言語多文化教育研究センター (国際)
ドイツ語	胡屋 武志	多言語多文化教育研究センター (国際)
フランス語	松井 真之介	多言語多文化教育研究センター (国際)
中国語	張 婧璋	多言語多文化教育研究センター (国際)
韓国語	金 智賢	多言語多文化教育研究センター (国際)
日本語科目等	松永 稔也	多言語多文化教育研究センター (国際)
日本語科目等	小柴 裕子	多言語多文化教育研究センター (国際)
日本語科目等	伊藤 健一	国際連携センター (国際)

外国語科目等 (非常勤講師)

科目名	教員名
英語	市園 なお子
英語	内野 富子
英語	横山 コリーン
英語	徳地 慎二
英語	ダンカン・バットランド
英語	前 恵子
英語	ニコル・ヒュー
英語	ヘンスリー・ジョール
英語	マーティン・メイン
英語	スティーブ・タイカト
英語	長友 和彦
英語	隈元 正行
英語	ヘイ・アレックス
ドイツ語	井上 修一
ドイツ語	武次 玄三
ドイツ語	竹川 昭男
中国語	関 黎明
中国語	三好 慎一郎
中国語	劉 薇
韓国語	申 允珠
韓国語	韓 壽燕
日本語科目等	和田 恵
日本語科目等	椎葉 淑乃
日本語科目等	狩野 貴美子